

2021年度 一般社団法人日本社会福祉学会事業報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

2021年度は、2020年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症に翻弄されたが、そのような状況においても、社会福祉学分野のさらなる学問的水準の向上を図るため、オンラインによる学術研究集会の開催や学会機関誌の刊行等の活動を行い、昨年度以上に積極的な学会活動に取り組んだ一年であった。一方で、会員間での共同研究や国際的な学術交流の形態がコロナ禍前から大きな変革を遂げていることから、今後の学会のあり方や、初期キャリア形成期にある研究者への支援のあり方について検討を重ねた一年でもあった。具体的な施策案は次年度以降への引継ぎ事項としている。

I. 学術研究集会、講演会等の開催

1. 全国大会

1) 第69回春季大会報告

2021年5月30日(日)に「認知症の人々とともに生きる地域共生社会を目指してー認知症ケアとストレンジス・アプローチー」をテーマにシンポジウムをオンライン開催し、約360名が参加した。

2) 第69回秋季大会報告

2021年9月11日(土)・12日(日)に東北福祉大学を開催校として「死から生を見つめる福祉」をテーマに開催し、約650名が参加した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全ての企画を有料でのオンライン開催とした。今回初めての試みとして、会期終了後にシンポジウム等、一部のプログラムをオンデマンド配信した。また、今回より参加費の早割制度を導入した。今大会においても、事前に申請した大学院生等の学生会員に対して参加費を免除することとし、42名からの申請があった。

3) 第70回全国大会に向けての準備

第70回春季大会は2022年5月29日(日)に「格差社会解消へのアプローチを求めて」をテーマに、参加費無料でオンライン開催予定である。

第70回秋季大会は、2022年10月15日(土)・16日(日)に「新たな日常と社会福祉ー『つながり』の未来を見据えてー」をテーマに開催予定である。関西福祉科学大学を開催校として、ポスター発表以外の口頭発表、特定課題セッション発表、開会式および各種シンポジウム等は、従来どおり対面で行い、一部のプログラムではライブ配信を行う予定である。また、第69回秋季大会と同様に、会期終了後に一部プログラムのオンデマンド配信を予定している。

2. 日本社会福祉学会フォーラム

2021年度は、2022年2月12日(日)に、学会の中国・四国地域ブロックとの共催で「国際化する福祉人材と社会福祉運営管理 ～地域共生社会を志向するなかで～」をテーマにオンライン開催した。参加者は約90名であった。

2022年度開催の第19回フォーラムは九州地域ブロックとの共催での開催を予定している。

3. 地域ブロック研究大会

各地域ブロックの研究大会については、各地域ブロックからの事業報告に記載されている。

Ⅱ. 学会機関誌『社会福祉学』その他刊行物の刊行

1. 学会機関誌『社会福祉学』刊行

1) 機関誌編集委員会活動

①機関誌編集委員会構成

2021年度の機関誌編集委員会は以下の16名で構成した（敬称略）。

委員長：柴田謙治（理事）、副委員長：荒井浩道（理事）、空閑浩人（理事）

委員：石井洗二、岡本晴美、荻野剛史、金子 充、木下 聖、斉藤雅茂、潮谷恵美、
澁谷昌史、相馬大祐、鶴野隆浩、中尾友紀、中村和彦、野田博也

②機関誌編集委員会開催

2021年度には編集委員会を7月10日（土）、10月9日（土）、1月8日（土）、3月14日（月）の計4回オンラインで開催した。また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、5月、8月、11月、2月に実施した。

③拡大編集委員会開催

第69回秋季大会がオンライン開催となったため、査読委員を含めた機関誌拡大編集委員会は開催しなかった。

④機関誌のテキストデータの提供

視覚障害のある会員の要請に応じて、『社会福祉学』のテキストデータの提供を行った。

2) 機関誌『社会福祉学』刊行

2021年度には和文誌を4回（62-1/62-2/62-3/62-4）発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」を62-5として刊行した。投稿論文2本、掲載論文2本。

巻／号	62-1	62-2	62-3	62-4
発行月	2021年5月	2021年8月	2021年11月	2022年2月
論文	4	5	5	7
実践報告				
調査報告	1	2		
資料解題				
書評	2	3	2	1
文献紹介		2	2	
学会回顧・展望			8	
全国大会等				4
総ページ数	92	134	214	134
印刷部数	4,650	4,600	4,600	4,600

2. 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックの機関誌発行状況は、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

Ⅲ. 研究の奨励および研究業績の表彰

1. 日本社会福祉学会 学会賞

1) 学会賞審査委員会の開催

2021年度学会賞の審査委員会は、小林良二委員長、井上英夫委員、黒木保博委員、副田あけみ委員、永岡正己委員、平野隆之委員と学会賞審査委員会担当理事である岩井浩英理事が構成し、2020年1月から12月までに刊行された図書及び論文を審査した。

2) 審査対象研究業績

2020年1月から12月までに刊行された研究業績の内、会員からの推薦14作に加えて、国立国会図書館検索システムから抽出した単著かつ日本社会福祉学会会員が執筆した22作、アマゾン日本版の検索サーチから抽出した7作より、会員業績の43作を審査対象とした。

論文部門は、推薦された2編に、2020年に本学会機関誌（第60巻4号、第61巻1～3号）に掲載された論文26編を加えた28編を審査対象論文とした。

3) 審査の経緯

第1回審査委員会（2021年3月8日開催）

審査対象となる研究業績を絞り込み、43作の単著、28編の論文を第1次審査対象とした。

第2回審査委員会（2021年5月23日開催）

第1次審査対象図書の査読結果を報告し、第2次審査対象として、5作の単著、4編の論文を選考した。

なお、平野委員の著作が二次審査の対象となったことから、同委員は二次審査における書籍の審査に一切関与しないこととした。二次審査において、書籍については平野委員を除く6名の委員で、論文については平野委員を含む7名の委員全員で審査を行った。

第3回審査委員会（2021年7月11日開催）

第2次審査対象図書の査読結果を報告し、総括的審査の結果、全会一致で以下の通り、学術賞2名、奨励賞1名の授賞者を決定した。

○学術賞

西崎 緑『ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたのか

——制度的人種差別とアメリカ社会福祉史』（勁草書房、2020年8月25日刊）

平野隆之『地域福祉マネジメント

——地域福祉と包括的支援体制』（有斐閣、2020年3月25日刊）

○奨励賞（単著部門）

田中智子『知的障害者家族の貧困

——家族に依存するケア』（法律文化社、2020年4月10日刊）

4) 学会賞授賞式

2021年9月11日、第69回日本社会福祉学会秋季大会（東北福祉大学/WEB開催）において授賞式が行われ、小林良二委員長の挨拶及び経過報告の後に、木原活信会長より西崎緑氏ならびに平野隆之氏に学術賞が、田中智子氏に奨励賞が授与された。

2. 地域ブロックへの研究奨励

「日本社会福祉学会地域ブロック助成金配分基準」に基づいて、各地域ブロックの研究事業を支援した。各地域ブロックの下の「地域部会委員会」が中核となり、事業計画に基づいて活動が展開された。その事業内容は各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

IV. 関連学術団体との連絡および協力

1. 日本社会福祉系学会連合

会長として本学会の湯澤直美副会長（任期：2020年5月～2022年5月）を、事務局長として室田信一理事（任期：2020年5月～2022年5月）を、運営委員として小櫃俊介会員と三宅雄大会員を派遣している（任期：2020年5月～2022年5月）。また、本学会の学会事務局と同様に、日本社会福祉系学会連合として、加盟学会との連絡、資料作成、経理処理等の事務局業務について（株）国際文献社と委託契約を締結している。

2021年6月27日（日）に開催された日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会主催の公開シンポジウム「コロナ禍における社会福祉の課題と近未来への展望～直面する危機から考える～」を共催した。

2. その他の関連団体との連携

「社会政策関連学会協議会」「社会学系コンソーシアム」「ソーシャルケアサービス研究協議会」「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」に理事等役員を派遣し、連携に努めた。

V. 国際的な研究協力の推進

1. 韓国を始めとする東アジア諸国との連携及び学術交流

1) 韓国社会福祉学会 2020年社会福祉共同学術大会への派遣

2021年10月22日（金）・23日（土）にオンライン開催された韓国社会福祉学会 2021年社会福祉共同学術大会に、自由研究発表者1チーム（3名）を派遣した。

2) 中国社会学学会社会福祉研究専門委員会 2021年中国社会福祉研究専門委員会年次総会への派遣

2021年12月12日（日）に華東師範大学社会発展学部とオンラインにて開催された 2021年中国社会福祉研究専門委員会年次総会に自由研究発表者1チーム（1名）を派遣した。

3) 2021年度日・韓・中3カ国学術交流会議について

2021年8月4日（水）に韓国・中国・日本の3カ国会長会議をオンライン開催し、各国の現況報告と今後の3カ国の連携について協議した。

2. 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

第68回秋季大会において、2021年9月12日（日）に留学生と国際比較研究のためのワークショップ（テーマ：コロナ禍における国際社会福祉研究・教育活動）をオンラインにて実施した。

VI. 学会の組織・運営

1. 会員の動向

1) 入会について

2021年度の入会許可者数は、153名である。

2) 会員の動向

2021年度入会者が153名、2020年度退会者が226名で、2021年4月1日現在の会員数は4,253名である。

3) 名誉会員数

2022年5月1日現在の名誉会員は下記の16名である(50音順、敬称略)。

秋山 智久 阿部 志郎 井岡 勉 右田 紀久恵 太田 義弘 大友 信勝
大橋 謙策 岡本 栄一 岡本 民夫 忍 博次 柏木 昭 児島 美都子
小林 良二 田端 光美 中垣 昌美 古川 孝順

2. 一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会

「定款」第29条の規定に基づいて、「2021年度定時社員総会」を開催した。出席代議員は、139名(委任状76名含む)であった。審議事項および報告事項は、以下の通りである。

開催日時：2021年5月30日(日) 10:00~11:20

開催会場：一般社団法人日本社会福祉学会事務局 (Zoomによるオンライン開催)

審議事項

1. (一社)日本社会福祉学会2020年度事業報告・決算・監査報告について
2. 長期会員制度の設置および(一社)日本社会福祉学会諸会費規程の改正について
3. (一社)日本社会福祉学会2021年度事業計画及び当初予算について
4. 名誉会員の推挙について
5. その他

報告

1. その他

3. 理事会

2021年度は、学会の諸課題を検討し、学会運営を円滑に遂行するために5回開催した。また、臨時のメール審議を適宜行った。

役員構成は、別表一①の通りであり、審議事項は以下の通りである。(報告事項は除く)

第1回理事会(2021年5月29日開催)

審議事項

1. 入会審査
2. 2021年度予算案の変更について
3. 2020年度事業報告、決算報告および監査報告(理事会ML審議済)
4. 全国大会運営委員会の委員交代について
5. 研究支援委員会の委員委嘱について
6. 『社会福祉学』J-Stage閲覧のための認証パスワードの設定について
7. 学会公式Twitterの開設について
8. その他

第2回理事会(2021年7月17日開催)

審議事項

1. 入会審査
2. 学会賞審査委員会に関する諸案件について
3. 選挙管理委員会の設置および委員の選出
4. 学会賞審査委員の再任手続きおよび新任の選出
5. 学会のあり方検討ワーキンググループについて
6. 第70回大会に向けた学会企画について
7. Zoomの契約更新について
8. その他

第3回理事会（2021年9月10日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2022年度業務委託契約について
3. 「一般社団法人日本社会福祉学会学会賞審査委員会規程」の改定および学会賞審査委員の追加委嘱について
4. 「一般社団法人日本社会福祉学会謝金支払い内規」の改定について
5. 人文社会科学系学協会の相互連絡MLの管理について
6. セーブ・ザ・チルドレン意見広告への賛同依頼および寄付金について
7. その他

第4回理事会（2021年12月4日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2022年度業務委託契約について
3. 第8期役員候補者選挙管理委員の委嘱について
4. 研究支援委員の追加委嘱について
5. 地域ブロック運営のための個人情報の取扱いについて
6. コンビニ決済の導入について
7. 継続審議案件（学会賞審査委員会に関する案件、第70回秋季大会、等）
8. その他

第5回理事会（2022年3月12日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2022年度事業計画案および予算案について
3. (一社)日本社会福祉学会諸会費規程の改正について
4. (一社)日本社会福祉学会役員候補者選出規則の改正について
5. (一社)日本社会福祉学会プライバシーポリシーの改正と個人情報データの提供に関する内規の制定について
6. 2022年度定時社員総会での名誉会員の推挙について
7. 2022年度定時社員総会の議題について
8. 全国大会運営委員の委嘱および解嘱について
9. 学生の身分を有する会員のコロナ禍による年会費軽減措置の継続可否について

- 10. 英文誌への投稿要領の改正について
- 11. 研究倫理案件への対応について
- 12. 会長声明の発出について
- 13. その他

4. 運営委員会

事業計画を踏まえ事業状況を確認すると共に、各種委員会から提案された課題・報告事項、事務局会議からの課題・報告事項を確認、整理するために、各回の理事会に先立ち、会長、副会長、総務担当理事、研究担当理事、財務担当理事、機関誌編集担当理事をメンバーとする運営委員会を開催した。

5. 監査

定款第20条に基づいて、2021年度上半期の監査を11月25日に実施し、12月4日開催の理事会で業務状況及び予算執行状況について報告を行った。また、2021年度全体の監査を2022年4月25日に実施し、理事会および定時社員総会にて、法人の業務および財産状況の報告を行った。

6. 各種委員会の活動（委員会構成は別表一②）

1) 大会運営委員会

1. 2021年度において推進した事業

(1) 第69回（2021年度）春季大会の開催

テーマ：認知症の人々とともに生きる地域共生社会を目指して
ー認知症ケアとストレングス・アプローチー

月 日：2021年5月30日（日）

会 場：オンライン開催（参加費無料）

参加者：約360人

(2) 第69回（2021年度）秋季大会の開催

テーマ：死から生を見つめる福祉

月 日：2021年9月11日（土）～12日（日）

開催校：東北福祉大学

会 場：オンライン開催・一部終了後オンデマンド配信（有料）

参加者：約650人

※新型コロナウイルス蔓延のため、すべての企画を有料オンライン開催とした。自由研究報告はE-poster発表形式で行った。初めて試みとして、シンポジウム等を終了後、オンデマンド配信とした。

(3) 第18回日本社会福祉学会フォーラムの開催（中国・四国地域ブロックとの共催）

テーマ：国際化する福祉人材と社会福祉運営管理 ～地域共生社会を志向するなかで～

月 日：2022年2月12日（日）

会 場：オンライン開催（参加費無料）

参加者：約90人

2. 現在、検討している事項

(1) 第70回(2022年度)春季大会の開催準備

テーマ：格差社会解消へのアプローチを求めて

月 日：2022年5月29日(日)

会 場：オンライン開催(参加費無料)

(2) 第70回(2022年度)秋季大会の開催準備

テーマ：新たな日常と社会福祉ー「つながり」の未来を見据えてー

月 日：2022年10月15日(土)～16日(日)

会 場：関西福祉科学大学、一部オンライン開催・オンデマンド配信(有料)

(3) 第19回学会フォーラムの内容検討

九州地域ブロックと協議中

3. その他(課題等)

秋季大会では、対面での大会開催と合わせて、シンポジウム等のオンライン開催と会期終了後のオンデマンド配信を予定している。初めて試みであり、会員のニーズや費用対効果も考えながら、ポストコロナにおける大会の在り方を検討していきたい。

2) 学会賞審査委員会

1. 2021年度において推進した事業

(1) 学会賞の選考について

業績審査は2020年1月から12月までに刊行された図書及び論文を審査した。

①審査対象研究業績

2020年1月から12月までに刊行された研究業績の内、自薦・他薦された図書(14作)以外に、国立国会図書館到着発送情報において社会福祉学に関わる文献として該当する4,908作を選び、かつそれらが日本社会福祉学会員の対象業績であるかどうかをチェックした22作を抽出した。また、アマゾンリサーチを活用し、「社会福祉(2020年刊行)」で検索した結果、上記検索図書以外に会員業績7作を抽出することができた。なお、実践のルポルタージュ、随想、テキストの他、共著による著書等については、本事業における表彰の対象ではないことから、目次や図書紹介、概要などをもとに検討して除外した。上記の結果、学会賞審査委員会へ提案された審査対象著書合計43作を第1次審査対象著書とすることを決定した。

論文部門は、推薦のあった2編と、それ以外に2020年に本学会機関誌(第60巻4号、第61巻1～3号)に掲載されたもののうち、過去に奨励賞(論文部門)受賞経験のない筆者の論文26編の合計28編を対象論文として審査することにした。

②審査の経緯

◆第1回審査委員会(2021年3月8日開催)

上記の審査対象の研究業績について審査を行った。審査項目は、①研究の意義、視点、方法の明確性、②記述の明晰性、記述表現の妥当性、③先駆性、開拓性、独創性、④研究の完成度、成果度、⑤研究実践上の貢献度の5項目とした。各項目の6点満点で評価することとし、採点は3点を標準点として、標準を超えて「良い」と評価するものには4～6点をつけ、同時に標準に満たないものについては1～2点で採点することを確認した。

第1次審査を行う43作の著書について、1作につき2人の審査委員を選び、上記の5つの審査項目によって審査し、自由記述でコメントを付すことにした。最終的には、審査委員ごとに10作から15作の審査対象著書が割り振られた。審査担当著書の分担に際し、委員が執筆した著書や委員による推薦が行われた著書については該当の委員に審査を担当させないこととし、審査の透明性の担保を図った。

第1次審査を行う論文28編については、1編につき2人の審査委員が担当することとし、結果的に各審査委員が6編から9編の論文を担当することになった。

◆第2回審査委員会（2021年5月23日）

第1次審査対象図書の査読結果を報告し、合計60点満点のうち、概ね45点を超えるものを第2次審査対象著書として選定した。45点以下の著書についても1冊ずつ評価を行い、第2次審査の対象に残す必要があるかどうかを評価・確認した。

第2次審査の対象になった著書は5作であったが、平野委員の著書が第2次審査の対象となったことから、審査の公平性を確保するため、平野委員は自身の著書を含めた全ての書籍の第2次審査に一切関与しないこととし、平野委員を除く6人で審査することとなった。

論文については、4編を第2次審査対象とし、審査委員7人全員で審査を行うことにした。

◆第3回審査委員会（2021年7月11日）

第2次審査対象書籍は平野委員を除く審査委員6名、論文は審査委員全員で上記5項目（各項目6点満点）について評定し、各対象作に対してコメントを記載したものを共有した。いずれも評価は高いものであったが、総括的審査の結果、全会一致で以下の授賞候補作が決定し、2021年7月17日開催の第2回理事会にて授賞候補作の理事会承認を得た。

○学術賞

西崎 緑『ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたのか

——制度的人種差別とアメリカ社会福祉史』（勁草書房、2020年8月25日刊）

平野隆之『地域福祉マネジメント

——地域福祉と包括的支援体制』（有斐閣、2020年3月25日刊）

○奨励賞（単著部門）

田中智子『知的障害者家族の貧困

——家族に依存するケア』（法律文化社、2020年4月10日刊）

○奨励賞（論文部門）

該当者なし

(2) 学会賞授賞式について

2021年9月11日、第69回日本社会福祉学会秋季大会（東北福祉大学/WEB開催）において授賞式が行われ、小林良二委員長の挨拶及び経過報告の後に、木原活信会長より西崎緑氏ならびに平野隆之氏に学術賞が、田中智子氏に奨励賞が授与された。

(3) 学会賞審査委員を対象としたアンケートについて

かねてより本委員会内で懸案とされてきた委員負担の問題に対する改善策の一環として、2021年度の審査作業等が終了した時点で委員を対象とするアンケートを実施した。

2. 現在、検討している事項

(1) 2022年度学会賞審査委員会の開催について

2022年度学会賞審査委員会は第12期となり、再任された委員は、井上英夫会員、黒木保博会員、平野隆之会員、新任の委員は、笹岡眞弓会員、杉本貴代栄会員、野口定久会員、細井勇会員、森田明美会員、山縣文治会員である。担当理事を含めて委員10名による新体制は、2021年9月10日（金）開催の第3回理事会において、学会賞審査委員の負担軽減のため、3名の委員増員が決定されたことに基づく。また、同理事会にて、委員増員を行うことにより今後の委員候補となる人材の確保が困難になることから、委員任期の見直しについても審議され、「一般社団法人日本社会福祉学会学会賞審査委員会規程」が改正されたことを付記しておく。

第1回審査委員会を2022年3月4日（金）に開催し、委員の互選により黒木委員が新委員長に選出された。また、黒木委員長長の指名により、山縣委員が副委員長に選出された。

第2回審査委員会は2022年5月、第3回審査委員会は2022年7月に開催予定である。

(2) 学会賞の選考について

第1回審査委員会（オンライン会議）では、新旧委員の紹介がなされた後、黒木委員が新委員長に選出され、山縣委員が副委員長に指名された。その後、前期体制からの継続審議となる本委員会関連案件（後述）の説明を経たうえで、審査方針等を再確認し、審査対象書籍・論文の選定、第1次審査対象書籍・論文の分担を決定した。また、審査基準および今後の委員会開催予定等の確認も行った。

第2回審査委員会は第1次審査結果を基に第2次審査対象書籍・論文を選定、第3回審査委員会で審査結果と授賞候補者を決定する予定である。

3. その他（課題等）

下記の案件について、2022年度にて1年をかけ検討する予定である。

- ・審査対象書籍の推薦制度を導入する案
- ・大学院生を補助スタッフとして有償採用する案
- ・委員の任期（2期4年）の見直し
- ・その他

3) 研究倫理委員会

1. 2021年度において推進した事業

(1) 研究倫理委員会構成

委員長：倉田康路（理事）、副委員長：山田壮志郎（会員）

委員：坂田周一（会員）、門田光一（会員）、増田幸弘（会員）

(2) 研究倫理案件発生における委員会対応

当該年度において1件の研究倫理申立てがあり、研究倫理委員会を3回（2021年12月17日、2022年1月17日、2022年2月9日）開催した。対象会員への聞き取り調査を2回（2021年12月21日、2022年1月18日）実施したうえで調査報告書を作成し、2022年2月10日に会長宛に提出した。

2. 現在、検討している事項

特になし。

3. その他（課題等）

特になし。

4) 国際学術交流促進委員会

1. 2021 年度において推進した事業

(1) 留学生と国際比較研究のためのワークショップの実施

開催日時：2021 年 9 月 12 日（日）10：30～12：00

開催場所：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

参加者数：約 30 名

テーマ：コロナ禍における国際社会福祉研究・教育活動

発題者：松尾加奈（淑徳大学アジア国際社会福祉研究所）

金 成垣（東京大学）

菅野花恵（米国バルドスタ州立大学）

コーディネーター：国際学術交流促進委員会 委員 浅野貴博（ルーテル学院大学）

黒田 文（東北福祉大学）

(2) 東アジア諸国との連携及び学術交流・推進事業

①日・中・韓三ヵ国協議

開催月日：2021 年 8 月 4 日（水）

開催場所：オンライン開催

出席者：木原活信（会長）

和気純子（副会長/国際学術交流促進委員長）

包敏（国際学術交流促進委員：中国担当）

金成垣（国際学術交流促進委員：韓国担当）

姜恩和（国際学術交流促進委員：韓国担当）

韓国からの代表者 3 名、中国からの代表者 4 名

②韓国社会福祉学会 2021 年社会福祉共同学術大会へ個人研究発表者の派遣

開催月日：2021 年 10 月 22 日（金）、23 日（土）

開催場所：オンライン開催

派遣者：1 チーム 3 名（①川池智子、古野愛子、川池秀明）

③中国社会学会社会福祉研究専門委員会 2021 年中国社会福祉研究専門委員会年次総会へ個人研究発表者の派遣

開催月日：2021 年 12 月 12 日（日） ※10 月 9 日（土）、10 日（日）から延期

開催場所：華東師範大学社会発展学部、オンライン開催

派遣者：1 チーム 1 名（①渡辺修宏）

④韓国、中国からの個人自由研究発表者の受け入れ

韓国社会福祉学会（5 チーム）

・呉慧恩（成均館大学）、洪垌駿（成均館大学）

・韓佳恩（ソウル女子大学一般大学院）

- ・オム ジュラン (韓世大学)
- ・李柄化 (京畿福祉財団)、李松禧 (ソウル市福祉財団)、洪昇珠 (ソウル市福祉財団)
- ・洪昇珠 (ソウル市福祉財団)、夫晟銀 (ユジンディケアサービスセンター)

中国社会科学会社会福祉研究専門委員会 (2 チーム)

- ・齊少傑 (西南財経大学)、花逢端 (西南財経大学)、許晟源 (東北大学)、劉峰 (淮陰師範学院)
 - ・劉晴暄 (上海師範大学)、龍進宇 (上海師範大学)、
- (3) コロナ禍における年会費軽減措置を申請した会員 (学生) へのアンケート調査結果の報告
- (4) 国際学術交流促進委員会開催
- 第1回 2021年6月26日(土) 10:00~12:00 (オンライン開催)
- 第2回 2022年1月20日(木) 19:00~21:00 (オンライン開催)

2. 現在、検討している事項

- (1) 第70回秋季大会における「留学生と国際比較研究のためのワークショップ」の開催
- (2) 第70回秋季大会の自由研究発表等への中国、韓国会員の広報と選考
- (3) 2022年度における中国、韓国の秋季大会における本学会員の参加募集と選考
- (4) 欧米諸国における社会福祉学研究の把握・紹介・交流の方法について

3. その他 (課題等)

欧米諸国における社会福祉学研究の把握・紹介・交流の方法について

5) 広報委員会

1. 2021年度において推進した事業

(1) 広報委員会の開催

第1回広報委員会

開催日時：2021年4月3日(土) 19:00~20:00

開催場所：オンライン開催

協議内容：①2020年度広報委員会事業報告(案)について、②2021年度広報委員会事業計画の進め方について、③理事会報告を含むそのほか報告事項

第2回広報委員会

開催日時：2021年11月15日(月) 19:00~20:00

開催場所：オンライン開催

協議内容：①理事会報告を含むそのほか報告事項、②学会ニュース編集後記の執筆者について、③英語版ホームページの監訳について

第3回広報委員会

開催日時：2022年1月17日(月) 19:00~20:00

開催場所：オンライン開催

協議内容：①次年度の事業計画について、②英語版ホームページの翻訳チームのメンバー変更について、③理事会報告を含む、そのほか報告事項、④懇談事項：今年度の反省、次期への引継ぎ事項等の確認

第4回広報委員会

開催日時：2022年4月7日（木）19：00～20：00

開催場所：オンライン開催

協議内容：①2021年度事業報告書（案）について、次年度に向けた引継ぎ事項の確認

(2) 学会ホームページの運営・管理

①新着情報の掲載と情報更新

②英語版・韓国語版・中国語版のホームページの充実化

・英語・韓国語・中国語それぞれの翻訳チームを組織化した（それぞれ翻訳者2-3名、監訳者1名）。

・「学会ニュース」の中から主要な内容をピックアップし、翻訳チームに翻訳を依頼した。

・会長声明を翻訳・掲載した。

③研究支援委員会企画「若手研究者リレーエッセイ」の掲載

・毎回2名ずつ。現在第7回まで掲載（14名分）

(3) 「広報委員会だより」の発行 ※年5回の一斉送信

学会の最新情報および関連団体の動向などを中心に配信し、事務局業務関連連絡は「事務局からのお知らせ」として学会事務局が随時送信した。

第54号（2021年5月10日）、第55号（8月16日）、第56号（11月19日）、

第57号（2022年1月21日）、第58号（2月25日）

(4) 「学会ニュース」の発行 ※ホームページ上に年3回掲載

最新の情報や関係団体の動向等、タイムリーな情報提供を行った。

シリーズ「クローズアップ」では、今年度のテーマを「これからの社会福祉学に期待すること」と定め、社会福祉学の各分野で長年ご活躍された先生方から、社会福祉学/学会の短期的/中長期的な目標、若手研究者へのメッセージ等についてご執筆頂いた。

第87号（2021年7月19日）、第88号（11月4日）、第89号（2022年2月3日）

(5) 日本社会福祉学会 Twitter 公式アカウントの開設

学会ホームページの掲載情報を中心に、7～10日に1回の頻度で更新・発信をした。

日本社会福祉学会秋季大会の際は、大会ホームページに Twitter を埋め込み、リアルタイムの情報発信を行った。

2021年6月3日に開設し、ツイート数93、フォロワー数273（2022年3月28日現在）。

2. 現在、検討している事項

学会 PR 動画、Youtube におけるチャンネル開設など

3. その他（課題等）

特になし。

6) 機関誌編集委員会

1. 2021年度において推進した事業

(1) 学会機関誌『社会福祉学』刊行

①機関誌編集委員会活動

i. 機関誌編集委員会構成

2021年度には以下の16名で機関誌編集委員会を構成し、業務にあたった。

委員長：柴田謙治（理事）、副委員長：荒井浩道（理事）、空閑浩人（理事）

委員：石井洗二、岡本晴美、荻野剛史、金子 充、木下 聖、斉藤雅茂、潮谷恵美、
澁谷昌史、相馬大祐、鶴野隆浩、中尾友紀、中村和彦、野田博也

ii. 機関誌編集委員会開催

2021年度には編集委員会を計4回開催した（オンライン）。

7月10日（土）、10月9日（土）、1月8日（土）、3月14日（月）

また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、5月、8月、11月、2月に実施した。

iii. 機関誌拡大編集委員会開催

第69回秋季大会がオンライン開催となったため、査読委員を含めた機関誌拡大編集委員会は開催しなかった

②機関誌「社会福祉学」刊行

2021年度には和文誌を4回（62-1/62-2/62-3/62-4）発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」を62-5として刊行した。投稿論文2本、掲載論文2本。

(2) 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックによる機関誌の刊行については、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

2. 現在、検討している事項

特になし。

3. その他（課題等）

特になし。

7) アーカイブ化推進委員会

1. 2021年度において推進した事業

アーカイブ化推進委員会としては、2021年度のコロナ禍の制約された状況下で、以下の作業に取り組んだ。

- (1) 学会事務局にある段ボール箱に保管されている資料の確認および目録作成作業への着手
- (2) 初期の学会誌のデジタル化の作業（業者への委託と納品）
- (3) 名誉会員へのインタビューの企画検討
- (4) リモートによる委員会の開催

2. 現在、検討している事項

- (1) 学会事務局所蔵の写真資料の確認作業について
状況の共有の上で今後の作業内容および必要な予算執行を検討する。
- (2) 『大会報告要旨集』の購入について

各『大会要旨集』（冊子版・CD-R版）の購入と冊子版のデジタル化作業と、さらにはCD-Rのデジタル化作業を行う。学会事務局の保管状況と部数を確認の上、『大会要旨集』（冊子版・CD-R版）を購入し、少なくとも2部体制として備えることで、劣化や破損に対して史資料管理を行う。

(3) 学会創設70周年を記念しての名誉会員インタビュー

名誉会員の先生方のインタビューを行い、学会の「記憶」を残すことを趣旨とする。コロナ禍の状況を見ながら、実施可能な範囲での検討を続ける。インタビュー実施者や予算、内容、記録方法等の詳細は、今後検討していく。

(4) 地域ブロックの資料のアーカイブ化の推進

地域ブロックで実施されてきた大会や研究会の資料、ニュースレターや研究誌等の資料に関するアーカイブ化について検討し、作業体制を整えていく。

3. その他（課題等）

(1) 今後はさまざまな作業を同時並行的に実施していく必要があるため、委員会委員の増員を検討、提案したい。

(2) 地域ブロック関係の資料収集のために、地域性や所属ブロックを鑑みたメンバー構成にしたい。

8) 研究支援委員会

1. 2021年度において推進した事業

(1) スタートアップ・ワークショップの企画・運営

・第69回秋季大会における「スタートアップ・シンポジウム」の企画・運営

テーマ：研究テーマの育て方について考える

開催日時：2021年9月11日（土）10：00～12：30

開催場所：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

参加者数：約150名

・第70回秋季大会における「スタートアップ・シンポジウム」の企画

(2) 若手会員を対象としたネットワーク「CS-NET」の準備と立ち上げイベントの開催

CS-NETの立ち上げに向けて、準備作業に取り組み、2022年3月21日（祝・月）午後に立ち上げイベントを開催した。

(3) 研究歴の短い会員を対象としたニーズ調査の実施

研究歴の短い会員を対象としたニーズ把握のため、インタビュー調査に取り組み、分析を行った。

(4) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進部会（GEAHSS）への参画

GEAHSSの運営委員会へ参加した。

(5) 研究支援に関する情報発信

学会ホームページへ掲載するためのリレーエッセイを7回にわたり掲載した。

2. 現在、検討している事項

- (1) 立ち上げを行った CS-NET の運営方法を確立し、活動を軌道に乗せる。
- (2) 研究歴の短い会員を対象としたインタビュー調査の分析に基づき、量的調査を実施する。
それらの結果を会員に向けて公表する。
- (3) 引き続き、学会ホームページにリレーエッセイを掲載する。
- (4) 日本社会福祉学会ホームページに研究支援委員会の部屋を設け、CS-NET の活動を随時掲載していく。
- (5) 引き続き GEAHSS の運営委員会へ参加し、内容を会員に伝えていく。

3. その他（課題等）

特になし。

1. 2021年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

第1回理事会

日 時：2021年5月17日（月）17：00～

場 所：オンライン開催（Zoom）

第2回 理事会

日 時：2021年6月22日（火）19：00～

場 所：オンライン開催（Zoom）

第3回 理事会

日 時：2021年9月21日（火）18：30～

場 所：オンライン開催（Zoom）

第4回 理事会+研究活動委員会

日 時：2021年12月15日（水）18：30～

場 所：オンライン開催（Zoom）

第5回 理事会

日 時：2022年3月22日（火）19：00～

場 所：オンライン開催（Zoom）

(2) 北海道社会福祉学会 総会・研究大会

1) 基調講演・研究大会

日 時：2021年6月3日（木）18：00～19：00

場 所：オンライン開催（Zoom） 出席者：42名

基調講演：「人口減少社会のデザイン—『分散型』システムへの移行とコミュニティ・生命経済」

広井 良典 先生（京都大学 こころの未来研究センター）

2) 北海道社会福祉学会総会

日 時：2021年6月3日（木）19：15～

場 所：オンライン開催（Zoom） 出席者：10名

議 題：①報告事項

1) 2020年度 事業報告

2) 2020年度 収支決算報告

3) 2020年度 監査報告

②議決事項

1) 2021年度 事業計画

2) 2021年度 予算

(3) 北海道社会福祉学会 シンポジウム・研究大会の開催

1) シンポジウム

日 時：2021年12月18日（日）15：30～17：40

場 所：オンライン開催 (Zoom) 参加者：23名

テーマ：コロナ禍における社会福祉実践の諸相ー支援における困難の固有性と普遍性からー

シンポジスト：高波千代子 (医療法人稲生会 企画戦略室)

佐藤圭司 (一般社団法人 パーソナルサポートセンター 仙台市生活自立・仕事
相談センター「わんすてっぷ」アウトリーチ支援センター)

片山寛信 (北海道医療大学)

コーディネーター：伊藤新一郎 (北星学園大学))

2) 研究大会

日 時：2021年12月18日 (日) 14:00~15:00

「子どもと青少年のリジリエンス尺度修正版 (日本語版) の信頼性と妥当性の検討」

○朝岡健吾 (北星学園大学大学院 社会福祉学研究科 博士後期課程)

中村和彦 (北星学園大学大学院 社会福祉学研究科)

「性産業で働く女性の仕事と生活問題に関する研究」

○春田彩夏 (北星学園大学大学院 社会福祉学研究科 博士前期課程)

主 催：北海道社会福祉学会・日本社会福祉学会北海道地域ブロック

(4) 院生・若手研究会

※新型コロナウイルスの状況を鑑み開催せず

(5) 研究活動担当理事・委員会活動

1) 研究活動委員会

第1回 研究活動委員会

日 時：2021年4月23日 (金) 11:30~

場 所：オンライン開催 (Zoom)

第2回 研究活動委員会

日 時：2021年5月12日 (水) 9:00~

場 所：オンライン開催 (Zoom)

第3回 研究活動委員会

日 時：2021年9月24日 (金) 14:00~

場 所：オンライン開催 (Zoom)

2) 日本社会福祉学会研究支援委員会若手研究者ネットワーク

研究活動委員会 保田真希会員 (北翔大学) が委員会に参画

3) 学会ニュース

学会ニュース① 2021年8月発行

(6) 機関紙編集委員会

1) 編集委員会

第1回：編集委員会

日 時：2021年12月6日 (月) 18:00~19:30

場 所：オンライン開催 (Zoom)

- ・投稿論文の査読者の選定について

第2回：編集委員会

日時：2022年2月4日（金）18：00～19：00

場所：オンライン開催（Zoom）

- ・投稿論文の査読結果の取り扱いについて
- ・次期の編集委員会の体制について

2) 機関誌の編集・発刊

「北海道社会福祉研究」第42号（電子ジャーナル）発行 2022年3月

2020年度シンポジウム「不安定化する「家族」ソーシャルワーカーの抱く家族像の二面性と葛藤」について掲載

2. 現在、検討している事項

- ・60周年記念企画の実施

3. その他（課題等）

- ・札幌圏以外の遠方の会員の学会参加の促進が課題である。
- ・新型コロナウイルスの蔓延に伴う活動の進め方。

東北地域ブロック 2021年度 事業報告書

1. 2021年度において推進した事業

(1) 研究大会

- 1) 開催年月日：2021年11月6日（土）
- 2) 開催方式：オンライン
- 3) 開催テーマ：東北における社会福祉の過去・現代・未来
- 4) 開催内容：
記念シンポジウム「東北における社会福祉の過去・現代・未来」
コーディネーター：田中治和（東北福祉大学）
コメンテーター：都築光一（東北福祉大学）
シンポジスト：狩野俊介（岩手県立大学）
工藤英明（青森県立保険大学）
阿部祐二（東北福祉大学）

自由研究発表：14題

(2) 研究誌の発行

「東北の社会福祉研究」第17号発行

(3) ニュースレターの発行

第26号（2021年11月発行） 第27号（2022年3月発行）

(4) 幹事会（役員会）の開催

第1回（2021年4月：オンライン） 第2回（2022年3月：オンライン）

2. 現在、検討している事項

特になし。

3. その他（課題等）

特になし。

関東地域ブロック 2021年度 事業報告書

1. 2021年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催（計3回：オンライン開催）

○第1回（2021年7月2日）、第2回（9月24日）、第3回（2022年2月3日）

○各部会活動の実施・運営（広報委員会、機関誌『社会福祉学評論』編集委員会、研究大会委員会、奨励賞審査委員会、その他）

(2) 研究大会の開催

開催日：2022年3月13日（土）

会 場：オンライン開催（Zoom）

参加費：無料

テーマ：“アフターコロナ”の新しい社会福祉を拓く

プログラム：

自由研究報告（9：30～12：00）

(1) 研究報告部門（報告30分、質疑応答20分）

(2) 萌芽的研究報告部門（報告15分、質疑応答10分）

(3) 実践報告部門（報告15分、質疑応答10分） 5分科会17演題。

シンポジウム「“アフターコロナ”の新しい社会福祉を拓く」（13：00～15：00）

シンポジスト：

大高研道（明治大学）

「協同労働と社会福祉の未来—労働者協同組合法成立は社会に何を投げかけているのか」

野口晃菜（LITALICO）

「自分と他者のウェルビーイングを大切にするために」

鴻巣麻里香（KAKECOMI）

「“住まいと居場所”再考—隙間の声を聴くソーシャルワークの試み〜」

大澤優真（つくろい東京ファンド、北関東医療相談会）

「コロナ禍における困窮者支援の現状と課題—在留資格のない外国籍者の貧困」

司会・進行：山田知子（放送大学）、贅川信幸（日本社会事業大学）

総会（関東部会奨励賞授賞式）（15：00～15：30）

(3) 奨励賞

- ・奨励賞審査委員会の設置
- ・1次審査・2次審査において受賞候補者を選出
- ・第3回運営委員会において受賞者決定
- ・研究大会後に開催された総会において表彰（受賞コメント動画をホームページに掲載）
- ・受賞者（1名）：姜恩和（目白大学）

「妊娠葛藤のある母親が自身での養育または養子縁組に託すことを決定する要因の探索的研究—慈恵病院の『SOS 赤ちゃんとお母さんの相談窓口』の事例を通して」（『社会福祉学評論』21: 38-51, 2020）

(4) 機関誌『社会福祉学評論』の刊行

- ・編集規程・執筆要項の改定（教育的査読のあり方、文字数制限）
- ・『社会福祉学評論』22号（2021）の発刊、5論文掲載

(5) 広報活動

ホームページにおける各種情報の掲載、機関誌『社会福祉学評論』（電子ジャーナル）への論文掲載、一日あたりの延べアクセス数は200～300件程度、会員情報管理システムによるメール配信サービスと連携した情報の発信（メールマガジン）。

2. 現在、検討している事項

機関誌『社会福祉学評論』の査読・編集体制について継続的に検討、経費節減

3. その他（課題等）

研究倫理、災害・感染症等の緊急事態への対応

中部地域ブロック 2021年度 事業報告書

1. 2021年度において推進した事業

(1) 研究例会の開催

2021年4月17日に研究例会（院生・若手研究者のための勉強会、自由研究発表3本、シンポジウム）および総会を開催した。

(2) 機関誌『中部社会福祉学研究』第13号の刊行

2022年4月末に第13号を刊行する。2021年度春の研究例会の内容の他、書評6編を掲載予定である。日本社会福祉学会ウェブサイトの中部ブロックページに掲載する。

(3) 「院生・若手研究者のための勉強会」の開催

上記の通り、2021年4月17日に開催した。

(4) その他

部会の事業運営について協議するための幹事会を3回（6月、9月、1月）開催した。また、部会内に、①機関誌、②院生・若手研究者のための勉強会、③研究例会について検討する委員会をそれぞれ設置し、適宜会議を行った。

2. 現在、検討している事項

2022年度の研究例会を2022年4月16日に開催する予定である。午前中のプログラムとして、自由研究発表（10本）、大学院生・若手研究者のための勉強会があり、午後はシンポジウムを計画している。午後のプログラムには、会員以外からも参加者を募り、幅広く社会福祉学会の魅力を伝え、学術分野における社会貢献・社会への還元を行いたい。

3. その他（課題等）

特になし。

関西地域ブロック 2021年度 事業報告書

1. 2021年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

- ・第1回 日時：2021年7月22日（木）19：00～21：00
議題：1. 2020年度決算および監査報告について
2. 紀要『関西社会福祉研究』について
 - ・編集委員会体制について
 - ・第8号（2022年3月発刊予定）について
 - ・紀要の電子化（PDF）とHP公開について
 - ・その他3. 2021年度若手研究者・院生情報交換会について
 - ・第48回、第49回の予定について
 - ・第50回について4. 2021年度年次大会について
 - 5. その他
- ・第2回 日時：2022年2月22日（火）18：30～20：30
議題：1. 2021年度事業報告（案）について
2. 2021年度決算報告（案）について
3. 2022年度事業計画（案）について
4. 2022年度予算（案）について
5. 2021年度年次大会・総会について
6. 2022年度・2023年度役員体制について
7. その他
- ・第3回 日時：2022年3月12日（土）理事会メーリングリストによる協議
議題：1. 2022年度・2023年度役員体制について
2. その他

(2) 若手研究者・院生情報交換会

・第 48 回若手研究者・院生情報交換会

テーマ：研究の進め方とその方法』

日 時：2021 年 11 月 20 日（土）15：00～18：00

場 所：オンライン開催（Zoom）

プログラム

開会挨拶：関西社会福祉学会理事 阪口春彦（龍谷大学短期大学部）

教育講演 「研究の進め方」 岡田進一（大阪市立大学）

シンポジウム 「研究を進めていくポイント：研究の楽しさと難しさ」

【シンポジスト】

中堅研究者の立場から：神部智司（大阪大谷大学）

若手研究者の立場から：杉山 京（日本福祉大学）

大学院生の立場から：楊 暁敏（大阪市立大学大学院後期博士課程院生）

【コーディネーター】 岡田進一（大阪市立大学）

総括：日本社会福祉学会関西地域ブロック担当理事 所めぐみ（関西大学）

・第 49 回若手研究者・院生情報交換会

テーマ：『研究を続ける情熱の生成と維持—あなたの Passion はどこから？—』

日 時：2022 年 1 月 22 日（土）15：00～18：00

場 所：オンライン開催（Zoom）

プログラム

開会挨拶：日本社会福祉学会関西地域ブロック担当理事 所めぐみ（関西大学）

基調講演：呉 世雄（立命館大学）

報告：

【報告者】

引土絵未（日本女子大学）

松尾敬子（同志社大学大学院後期博士課程院生・国連職員）

羽鳥恵一（同志社大学大学院後期博士課程院生・宇治おうばく病院精神保健福祉士）

【コーディネーター】

遅 力榕（同志社大学）

特別企画 外国人大学院生研究上の困難とその克服方法に関する調査報告

報告者：国 儒（同志社大学大学院後期博士課程院生）

質疑応答

総括：関西社会福祉学会理事 阪口春彦（龍谷大学短期大学部）

日本社会福祉学会会長 木原活信（同志社大学）

・第 50 回若手研究者・院生情報交換会 ※第 50 回を記念し、年次大会テーマとして開催

テーマ：関西社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロックのこれまでの歩みと今後の展

望：若手研究者・院生情報交換会開催 50 回の節目に関西での研究コミュニティを考
える

日 時：2022 年 3 月 13 日（日）13：00～17：45

場 所：オンライン開催（Zoom）

（3）年次大会の開催

日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会 2021 年度年次大会

テーマ：関西社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロックのこれまでの歩みと今後の展望：
若手研究者・院生情報交換会開催 50 回の節目に関西での研究コミュニティを考える

開催日：2022 年 3 月 13 日（日）13：00～17：45

場 所：オンライン開催

参加費：無料

プログラム

（午前の部）

9：30～10：55 自由研究発表（2分科会）

11：15～11：45 日本社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロック総会

（午後の部）

13：00 開会挨拶

13：05～14：30

第 1 部 鼎談「関西社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロックのこれまでの歩みと今後の展望」

【登壇者】

黒木保博（本学会会長、同志社大学名誉教授、長野大学教授）

小山 隆（本学会理事、同志社大学教授）

阪口春彦（本学会理事、龍谷大学短期大学部教授）

14：30～14：45 休憩

14：45～16：35

第 2 部 リレートーク「若手研究者・院生の育ち方、育て方、育ち合い方～若手研究者・院生・指導教員のリレートーク～」

【話題提供者】

淡路和孝（堺第 3 地域包括センター管理者、龍谷大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻後期博士課程）

姜 民護（同志社大学助教、大阪経済法科大学アジア研究所客員研究員）

青山貴彦（社会福祉法人桑友 事務局長）

小松亜弥音（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部 研究員）

埋橋孝文（同志社大学教授）

伊部恭子（本学会理事、佛教大学教授）

司会・進行 所めぐみ（本学会理事、関西大学教授）

16：35～16：50 休憩

16：50～17：40

第 3 部 交流セッション

閉会あいさつ

17：45 終了

(4) ニュースレターの発行

随時、会員へのメール配信、学会ホームページにて周知を行った。

(5) 機関誌の発行

機関誌『関西社会福祉研究』第8号 2022年3月発行

2. 現在、検討している事項

- ・新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みながら、コロナ禍ではほとんどできていなかった対面での研究交流活動、また同時にオンラインを積極的に活用しての研究交流活動の充実化。
- ・ホームページとメーリングリスト等を活用した会員への情報提供の充実化

3. その他（課題等）

特になし。

中国・四国地域ブロック 2021年度 事業報告書

1. 2021年度において推進した事業

(1) 部会委員会の開催

- | | | | |
|-----|----------------|-------------|---------------|
| 第1回 | 2021年5月21日（金） | 19：00～20：00 | オンライン開催（Zoom） |
| 第2回 | 2021年9月1日（水） | 19：00～20：00 | オンライン開催（Zoom） |
| 第3回 | 2021年12月28日（火） | 19：00～20：00 | オンライン開催（Zoom） |
| 第4回 | 2022年3月17日（木） | 19：30～20：30 | オンライン開催（Zoom） |

(2) 中国・四国地域ブロック総会の開催

2021年7月10日（土）第52回ブロック大会（オンライン開催：川崎医療福祉大学）において総会をオンラインにより開催し、2020年度決算報告及び事業報告、2021年度事業計画、予算について説明を行った。

(3) 中国・四国地域ブロック大会

第52回中国・四国ブロック大会（オンライン開催：川崎医療福祉大学）

テーマ：社会福祉から、人の「はたらく」を問い直す

日時：2021年7月10日（土）9：30～16：00

(4) 中国・四国地域ブロック会報（電子媒体）の発行

- ・21-1号を2021年9月6日に発行
- ・21-2号を2021年2月14日に発行

(5) 中国・四国地域ブロック機関誌『中国・四国社会福祉研究』（電子媒体）の発行

- ・第9号を2022年3月に発刊した（投稿掲載論文3本）。

(6) 第 18 回 日本社会福祉学会フォーラムの主催

テーマ：国際化する福祉人材と社会福祉運営管理 ～地域共生社会を志向するなかで～

日 時：2022 年 2 月 12 日（土）13：30～17：00

会 場：オンライン開催

シンポジスト

河内康文（高知県立大学准教授）

寶子丸周吾（福山市・社会福祉法人「ゼノ」少年牧場理事長）

山中康平（尾道市・社会福祉法人新生福祉会理事長）

久保田トミ子（広島国際大学名誉教授）

コメンテーター 和気純子（東京都立大学教授）

コーディネーター 岡崎仁史（広島国際大学名誉教授）

2. 現在、検討している事項

第 53 回ブロック大会（開催校：ノートルダム清心女子大学）2022 年 7 月 10 日（土）、対面開催による実施に向けて準備中である。

3. その他（課題等）

特に現段階での課題はないが、ブロック大会の開催校について、公平に各校が担当する仕組みを検討した。その案を作成し、第 4 回ブロック運営委員会において承認を受けた。第 53 回大会で開催するブロック総会においてブロック会員の承認を得るよう進める。

九州地域ブロック 2021 年度 事業報告書

1. 2021 年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催

運営委員 8 名（全国学会理事 3 名を含む）、事務局員 2 名で構成される運営委員会を 7 回開催

第 1 回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2021 年 5 月 25 日（火）

開催方法：オンライン開催（Zoom）

議題：第 62 回研究大会と定期総会の開催について、機関誌の執筆要項の改定について等

第 2 回運営委員会

開催日時：2021 年 7 月 13 日（火）

開催方法：メールによる会議

議題：定期総会（書面決議）の結果報告

第 3 回運営委員会

開催日時：2021 年 7 月 25 日（日）

開催方法：メールによる会議

議題：九州ブロック専用 Zoom アカウントの契約継続について

第 4 回運営委員会

開催日時：2021年11月19日（金）

開催方法：メールによる会議

議題：第64回研究大会の開催校について

第5回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2021年12月18日（土）

開催方法：オンライン開催（Zoom）

議題：第63回研究大会の開催方法について、2021年度の事業計画について

第6回運営委員会

開催日時：2022年1月14日（金）

開催方法：メールによる会議

議題：2022年度予算について

第7回運営委員会

開催日時：2022年3月14日（金）

開催方法：メールによる会議

議題：次期運営委員選挙について

（2）九州地域ブロック研究大会の開催

・「新たな時代の新たな社会福祉—いま、何が必要とされ、何ができるのか—」を大会テーマに、第62回大会（開催校：西南学院大学）を開催した。プログラムは以下の通り。

①基調講演・シンポジウム（Zoom ウェビナーによるオンライン開催） 2021年6月5日（土）

②自由研究発表（大会ホームページ上での紙面発表） 2021年6月5日（土）～6月13日（日）

※①の参加者は205名、②の自由研究発表件数は10件

・2022年7月に予定されている次回大会（第63回）の開催に向けて、開催校の長崎国際大学と準備を進めた。また、2023年度の第64回研究大会の開催校は筑紫女学園大学（福岡県）に決定した。

（3）定期総会の開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年度の定期総会は郵送による書面表決とした（回答期間：2021年6月23日～7月9日）。その結果、以下の議案がすべて承認された。

第1号議案 2020年度事業報告（案）

第2号議案 2020年度収支決算（案）及び会計監査報告

第3号議案 2021年度事業計画（案）

第4号議案 2021年度予算（案）

（4）機関誌『九州社会福祉学』の発行

2022年3月に「九州社会福祉学」第18号を発行した。詳細は以下のとおり。

・投稿論文数：論文12本、研究ノート2本、計14本

・掲載論文数：論文6本、研究ノート2本、計8本

・編集委員会の開催（メール会議8回、Zoomによるオンライン会議2回、合計10回）

・編集作業を次の手続きにより実施

① 査読者（各論文2名）による査読結果に基づき、修正など投稿者に依頼

- ② 修正された論文について編集委員会にて掲載の可否、掲載区分を決定し、投稿者に結果通知
- ③ 論文の校正
- ④ 投稿者へ論文掲載料振込依頼文書発送
- ⑤ 2022年3月に「九州社会福祉学」第18号を会員あてに発送

(5) 機関誌「九州社会福祉学」の執筆要項の改定

2021年5月25日の編集委員会において執筆要項を改定（投稿原稿の字数、原稿提出方法、句読点などの記述形式などの変更）し、総会時に周知するとともに、学会ホームページの「地域ブロック情報」に掲載した。

(6) 九州地域ブロック次期運営委員選挙の実施

2022年3月22日に次期運営委員選挙の資料を会員に郵送した。投票締め切りは4月5日（消印有効）とした。

2. 現在、検討している事項

- ・「九州社会福祉学」の執筆要項等の再改定を検討している。
- ・九州地域ブロックの担当となる2022年度の日本社会福祉学会フォーラムについて検討している。

3. その他（課題等）

新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインで開催した研究大会の参加費を無料としたことや、定期総会を書面表決で実施し通信費が増えたことなどから、2021年度は単年度で赤字の決算となっている。今のところ繰越金があるため、不足分は補填できているが、今後、改善策の検討が必要である。

一般社団法人日本社会福祉学会 第7期(通算第28期) 役員担当業務一覧

別表-①

氏名	主たる担当業務	担当委員会委員等	備考
木原 活信	会長	運営委員会	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 (理事)
和気 純子	副会長 渉外担当(国際) 財務補佐(助言)	運営委員会 国際学術交流促進委員会 (委員長)	ソーシャルワーカーサービス従事者研究協議会
湯澤 直美	副会長 渉外担当(国内) 総務補佐(助言)	運営委員会 地域ブロック担当者委員会 (委員長)	日本社会福祉系学会連合 (会長)
木下 武徳	総務担当	運営委員会 (事務局長)	事務局連絡会担当 社会政策関連学会協議会 社会学系コンソーシアム (副理事長)
室田 信一	財務担当	運営委員会 全国大会運営委員会 地域ブロック担当者委員会	事務局連絡会担当 日本社会福祉系学会連合 (事務局長)
岩崎 晋也	研究担当	運営委員会 研究委員会 (委員長) 全国大会運営委員会 (委員長)	秋大会担当
岡田 進一	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会 (副委員長)	春大会担当
岩井 浩英	研究担当	研究委員会 学会賞審査委員会	
倉田 康路	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会 研究倫理委員会 (委員長)	フォーラム担当
保正 友子	渉外担当(国内)	研究支援委員会 (委員長)	ソーシャルワーカーサービス従事者研究協議会 人文社会科学系学協会男女共同参画推進 連絡会 (GEAHSS)
柴田 謙治	機関誌担当	運営委員会 機関誌編集委員会(委員長)	
伊藤 嘉余子	広報担当	広報委員会 (委員長)	
空閑 浩人	機関誌担当	機関誌編集委員会(副委員長) アーカイブ化推進委員会	
大友 芳恵	地域ブロック担当	北海道地域ブロック担当	
都築 光一	地域ブロック担当	東北地域ブロック担当	
荒井 浩道	地域ブロック担当	関東地域ブロック担当 機関誌編集委員会 (副委員長)	社会学系コンソーシアム
谷口 由希子	地域ブロック担当	中部地域ブロック担当	
所 めぐみ	地域ブロック担当	関西地域ブロック担当 国際学術交流促進委員会	
山本 浩史	地域ブロック担当	中国・四国地域ブロック担当 広報委員会	
村山 浩一郎	地域ブロック担当	九州地域ブロック担当	
市川 一宏	監事		
秋元 美世	監事		

一般社団法人日本社会福祉学会 各種委員会構成

別表-②

委員会名	第7期委員会委員 (◎：委員長／○：副委員長)			
機関誌編集委員会	◎柴田 謙治 石井 洗二 木下 聖 相馬 大祐 野田 博也	○空閑 浩人 岡本 晴美 斉藤 雅茂 鶴野 隆浩	○荒井 浩道 荻野 剛史 潮谷 恵美 中尾 友紀	金子 充 澁谷 昌史 中村 和彦
学会賞審査委員会	◎小林 良二 井上 英夫 平野 隆之	○副田あけみ 岩井 浩英	黒木 保博	永岡 正己
広報委員会	◎伊藤 嘉余子 有村 大士 山本 浩史	石田 慎二	姜 民護	高山 恵理子
研究委員会	◎岩崎 晋也 岩井 浩英	岡田 進一	倉田 康路	
国際学術交流促進委員会	◎和気 純子 浅野 貴博 姜 恩和 所 めぐみ	ヴィラーグ・ヴィクトル 金 成垣 包 敏	黒田 文	郭 芳 阪口 春彦
研究倫理委員会	◎倉田 康路 門田 光司	坂田 周一	増田 幸弘	山田 壮志郎
全国大会運営委員会	◎岩崎 晋也 岡田 進一 石附 敬 小口 将典	倉田 康路 工藤 健一 山本 美香	室田 信一 津田 耕一 岡部 真智子	都築 光一 橋本 有理子 鶴浦 直子
地域ブロック担当者委員会	◎湯澤 直美 大友 芳恵 所 めぐみ	都築 光一 山本 浩史	荒井 浩道 村山 浩一郎	谷口 由希子 室田 信一
アーカイブ化推進委員会	◎元村 智明 今井 小の実	空閑 浩人	橋本 理子	蜂谷 俊隆
研究支援委員会	◎保正 友子 高良 麻子 千葉 伸彦 保田 真希	島崎 剛 中里 哲也	鈴木 浩之 永野 咲	田中 将太 宮崎 理